

報道関係各位

Tech Institute™プログラミング・デイ2014実行委員会

～12月7日にnicofarre(ニコファーレ/東京六本木)でシンポジウム～
「Tech Institute™ プログラミング・デイ 2014」開催
テーマはプログラミング教育、子どもの学び
—六本木ニコファーレで、7月から開講のアプリ開発者講座の成果も発表—

サムスン電子ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役:方常源、以下、サムスン電子ジャパン)、早稲田大学エクステンションセンター(本校:東京都新宿区、所長:太田正孝、以下、早稲田大学EXセンター)、株式会社角川アスキー総合研究所(本社:東京都文京区、代表取締役社長:角川歴彦、以下、角川アスキー総研)の連携のもと、早稲田大学EXセンターの講座として2014年7月に開講したアプリ開発人材育成プログラム「Tech Institute™(テック・インスティテュート)」は、2014年12月7日(日)に「プログラミング・デイ 2014」を開催します。

オバマ米大統領が昨年12月の“Computer Science Education Week”で、「すべての人にプログラミング教育を」と講演。英国でも9月より小学校で“Computing”という教科が導入されるなど、プログラミング教育の必要性に対する議論が内外で高まっています。本シンポジウムは、スマートフォン利用者が急増する一方で不足するアプリ開発者を養成する目的で、サムスン電子ジャパンが社会貢献活動の一環として取り組んでいるTech Institute™が、実際にプログラミングや学びの世界に関わっている方々にお集まりいただき、その魅力や価値、これらについて議論するものです。なお、本リリースでは「Tech Institute™アプリ開発者養成講座」第1期受講者のアンケート結果についてもお知らせします。

開催概要

名称: Tech Institute™プログラミング・デイ2014

内容: シンポジウム、ハッカソン、アプリ開発者養成講座成果発表

日時: 12月7日(日)※12月6日(土)にはプレイベントとなる「子ども×学びハッカソン」を開催

会場: nicofarre(ニコファーレ)(東京/六本木)

参加者: ハッカソン85名程度 シンポジウム100名程度

対象者: アプリ開発者養成講座受講生、受講生予備軍、エンジニア、教育関係者、企業の人事・開発担当

参加料: 無料

主催: Tech Institute™プログラミング・デイ2014実行委員会

特別協賛: サムスン電子ジャパン

後援: 総務省(申請中)

運営: 角川アスキー総合研究所

協力: 特定非営利活動法人CANVAS

日本Androidの会

早稲田大学エクステンションセンター(申請中)

「プログラミング・デイ 2014」シンポジウム概要

実施日:2014年12月7日(日) 15:00~20:00

構成:第一部 「どうなる!? 日本のプログラミング教育」

第二部 Tech Instituteアプリ開発者養成講座の成果発表、ハッカソン受賞式

【第一部の内容】

1:オープニングトーク

岸本哲哉氏(総務省 情報流通行政局情報通信利用促進課 課長)

2:対談「プログラミングの学び方とは」

石戸奈々子氏(CANVAS理事長)×村上憲郎氏(元Google日本法人代表取締役)

3:パネルディスカッション「テーマ:クリエイティブな学びとは」

伊藤ガビン氏(ゲームデザイナー)、西村俊之氏(大人の科学編集長)、

渡辺登氏(株式会社アフレル=教育版レゴ代理店)、岩朝暁彦氏(“ハッカドール”プロダクトオーナー)

4:Tech Instituteの活動紹介

【第二部の内容】

1:Tech Instituteの取り組みのご紹介

2:アプリ開発者養成講座の優秀アプリのプレゼンテーション(受講生3人)

3:スマートスクール取り組み説明

※スマートスクールは、サムスン電子ジャパンがNPO法人CANVASと共同で社会貢献活動の一環として展開するもので、

子どもとシニアを結ぶ、子どもたちが安全にスマートフォンを使うためのスクールです。

4:ハッカソン受賞アプリ発表と表彰

「子ども×学びハッカソン」概要

実施日:2014年12月6日(土)10:00~22:00

12月7日(日) 10:00~17:00

テーマ:子どもたちがスマホを安全で有意義に使うためのAndroidアプリを作ろう

参加者:第一期 Tech Instituteアプリ開発者養成講座 受講生

一般募集(応募者多数の場合は選抜)Webにて募集

合計85名程度を想定

一般参加資格:

・16歳以上の勤務経験がある社会人 または 学生

・両日参加可能であること

・PC、スマホを持参できること

※ 一般参加者の募集はWebで受付(一都六県以外からの参加者には交通費3万円、宿泊費1万円

までを上限として支援いたします。詳しくは <http://www.techinstitute.jp/event/> まで)

その他:無線LAN、API、電源等準備は運営サイドで準備。優秀チーム3チームを表彰(賞金総額50万円)

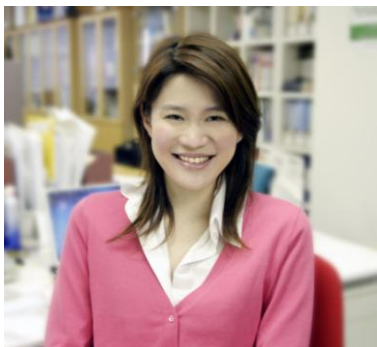
主な登壇者

岸本哲哉(きしもとてつや)氏



総務省 情報流通行政局情報通信利用促進課 課長

石戸奈々子(いしどななこ)氏



NPO法人CANVAS理事長/株式会社デジタルえほん代表取締役/慶応義塾大学准教授

村上憲郎氏(むらかみのりお)氏



村上憲郎事務所代表/前グーグル日本法人名誉会長/元グーグル米国本社副社長兼グーグル日本法人代表取締役社長

【 本件に関する報道関係からのお問い合わせ 】

株式会社角川アスキー総合研究所 (TEL:03-5840-7800、Mail:seminar@lab-kadokawa.com)

Tech Institute第一期受講生アンケート結果の概要

受講生の約4割が「将来に対する目的がはっきりした」と回答

現在開講中の第1期となる「Tech Institute™アプリ開発者養成講座」は、初心者からでもAndroid™用アプリ開発を学ぶことができるという内容であることから、現在大学生の受講生を中心に、高校生から社会人まで幅広い年代・背景を持った受講生が在籍。カリキュラムのゴールは「Android™用アプリを自分で作成して公開すること」にあります。ここで得た経験をどのように活用していくのかは受講生それぞれに委ねられています。

本講座の参加前と後で自分にどのような変化が生じているかを調査したところ、約8割の受講生が「変化を感じる」と回答。そのうちの約5割(全体の約4割)が「将来に対する目的がはっきりした」と回答しており、本講座を通じて具体的に将来について考える場を得られている傾向がうかがえる結果となりました。

学んだ内容を受講生の半数が「就職活動に」、4人に1人が「起業に」活かしたい

本講座は、アプリのニーズが高まる一方でその開発人材が不足した状況が続く社会的背景の上で、若年層を対象にしたアプリ専門人材育成・就労支援を目的に実施しております。

実際のその講義を受けている第1期受講生に、学んだ内容をどのように活かしたいかを尋ねたところ、約半数の受講生から「就職活動に活かしたい」という回答が得られました。また、4人に1人は「起業したい」「現在の業務に活かしたい」と回答しており、自身のキャリア形成とリンクさせつつアプリ開発を学ぶことができている様子が浮かび上がりました。

約9割が「カリキュラムに満足」しており、「講師・サポート体制」には77%の満足度

本講座は初心者からAndroid™用アプリ開発を学べる独自のカリキュラムのもと、オリジナルテキストを使用し、アプリ開発に携わっている各分野の現役スペシャリストたちが講師を担当しています。

講座そのものに関する満足度を受講生に尋ねたところ「カリキュラム」については約4割の受講生が「とても満足」、5割「まあまあ満足」と回答。さらに「講師・サポート体制」については、77%の受講生が「とても満足している」と回答しました。今後、自らが就職や起業を考えている受講生に対して、現役の開発者である講師陣が講義内外で手厚いサポートを行っており、その成果が調査回答にも反映される結果となりました。

第2期は東京・大阪それぞれで、6ヶ月・130時間の講義を提供

このような実績を踏まえ、2015年1月から開始する第2期は、東京においては早稲田大学EXセンターが引き続き開講するとともに、大阪でもサムスン電子ジャパン、角川アスキー総研、一般社団法人ナレッジキャピタル(代表理事:宮原秀夫、以下、ナレッジキャピタル)が連携し、JR大阪駅に直結するグランフロント大阪の中核施設ナレッジキャピタルで新たに講座を開設します。尚、第2期受講生は、東京・大阪ともに2014年11月6日(木)まで募集しております

以上

※「Tech Institute」は、日本国内において、サムスン電子ジャパン株式会社の商標または商標登録です。

※「Android」は、Google Inc.の商標または登録商標です。

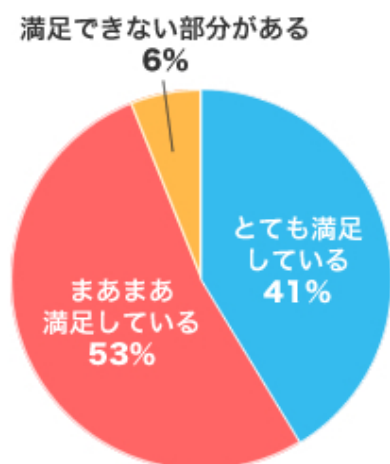
「Tech Institute™ アプリ開発者養成講座」第1期生アンケート結果

調査概要

調査方法： アンケート用紙への記入
調査時期： 2014年10月
調査対象： 16～35歳男女(Tech Institute™ アプリ開発者養成講座 第1期受講生)
サンプル数： 35名
調査実施： 早稲田大学エクステンションセンター

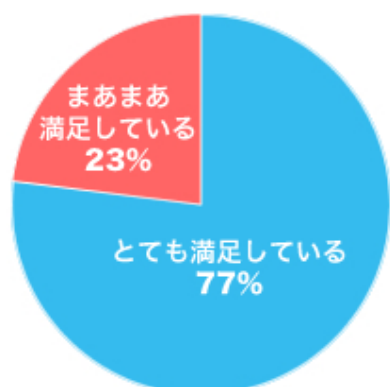
94%がカリキュラムに満足

■カリキュラムについてどう感じていますか？



講師・サポート体制の満足度は100%！

■講師・サポート体制についてどう感じていますか？

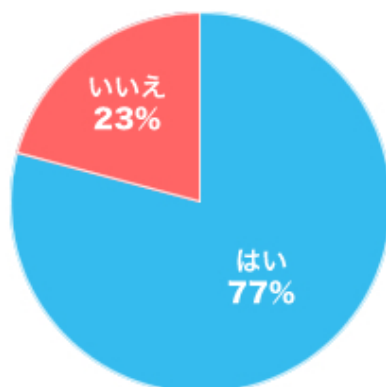


受講生の80%が自分の変化を自覚

講座の参加前と後で自分が変化したと感じるか

はい	79%
いいえ	21%

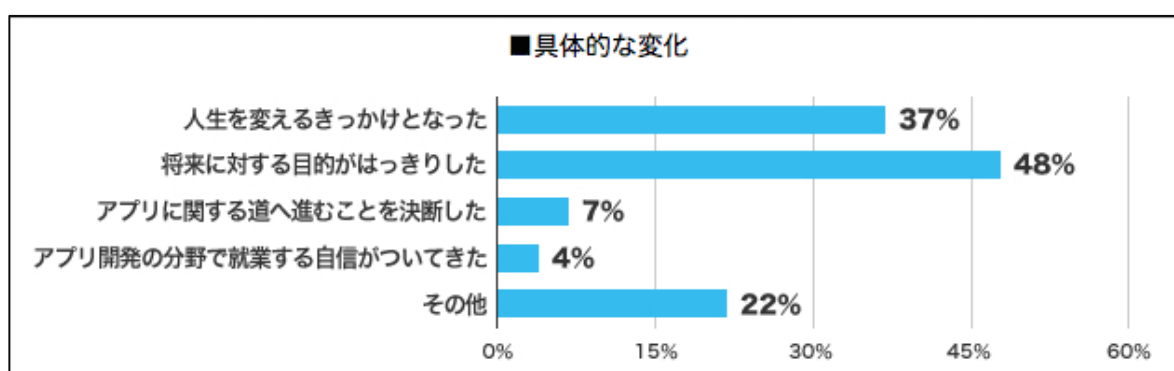
■本講座に参加して自分自身に変化を感じますか？



講座の参加前と後の具体的な変化の内容（上記ではいと答えた方）

人生を変えるきっかけとなった	37%
将来に対する目的がはっきりした	48%
アプリに関する道へ進むことを決断した	7%
アプリ開発の分野で就業する自信がついてきた	4%
その他	22%

複数項目を選んだ回答者あり



就職活動や起業に活かしたいという実感

学んだことを将来どのように活かしたいか

就職活動に活かしたい	50%
さらに学ぶことができる学校へ進学したい	18%
現在の業務に活かしたい	24%
起業したい	24%
その他	15%

複数項目を選んだ回答者あり

■学んだことを将来どのように活かしたいですか？

